

日本医師会における子どもの心の問題に対する取り組み

平成17年5月11日

日本医師会会員数 161,269名

—主たる診療科—

小児科会員数 9,210名

心療内科会員数 593名

精神神経科会員数 1,589名

精神科会員数 4,342名

神経科会員数 260名 (平成16年12月31日現在)

- I. 乳幼児保健講習会、学校医講習会の開催（平成13年度までは学校保健講習会）
記録を日医雑誌（毎年8月15日号）に掲載して全会員に配布

- II. 乳幼児保健検討委員会、学校保健委員会における検討
2年ごとに諮問、答申

- III. 日医雑誌における特集
子どもの心を育む（平成12年5月1日）
育児不安と親子関係（平成13年12月15日）

- IV. その他
児童虐待の早期発見と防止マニュアル
日医雑誌（平成14年7月1日）付録として全会員に配布
明石書店より市販
改訂 保育所・幼稚園園児の保健（平成12年3月）
学校医の手引き（平成16年3月）
学校における健康教育（仮題）（平成17年作成予定）

乳幼児保健講習会メインテーマ

平成16年度

「母子ともに輝く社会環境づくりをめざして」

平成15年度

「楽しく子育てができる活力とやさしさに満ちた地域社会づくりをめざして」

平成14年度

「育児と仕事を両立できる社会環境作りを目指して」

平成13年度

「子どもが心身ともに健やかに育つための育児支援を考える」

平成12年度

「心の健康と医師会の役割」

平成11年度

「地域における育児機能の回復を考える」

平成10年度

「乳幼児期からの心の健康」

乳幼児保健講習会

平成14年度「育児と仕事を両立できる社会環境作りを目指して」

- 講演 ・乳幼児期におけるこころの健全な発達のために
奥山真紀子（国立成育医療センターこころの診療部長）

平成12年度 21世紀の仮題「心の健康」

- 講演 ・脳の発達と子どものこころ
養老孟司（北里大学医療系大学院教授）
・乳幼児期と思春期のこころ
清水将之（三重県立小児心療センターあすなろ学園園長）

シンポジウム 「心の健康と医師会の役割」

- ・児童虐待予防への取り組み
松井一郎（国立小児医療研究センター客員研究員）
・日本小児科医会の取り組み（心の相談医研修事業）
保科 清（東京逓信病院小児科部長・日本小児科医会担当理事）
・地域医師会としての取り組み－徳島県医師会メンタルヘルス
対策委員会の取り組み
二宮恒夫（徳島大学医療技術短期大学部教授）
・行政としての取り組み
藤崎清道（厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課長）

平成11年度 「地域における育児機能の回復を考える」

シンポジウム 「地域における育児機能の回復を考える」

- ・子どもは変わってきたか
猪股 祥（湘南福祉センター平塚保育園園長）
・子ども虐待－その気づきと予防
才村 純（日本愛育会・日本子ども家庭総合研究所リ・ソ・サ・ク担当部長）
・母親神話と3歳児神話
庄司順一（青山学院大学文学部教育学科教授）

平成10年度 「乳幼児期からの心の健康」

講演 ・乳幼児期からの心の健康
渡辺久子（慶應義塾大学医学部小児科講師）

シンポジウム 「乳幼児期からの心の健康」

- ・父の役割，母の役割（家庭と親の役割再考）
柏木恵子（白百合女子大学文学部教授）
- ・きょうだいの役割（異年齢児集団の意義を含めて）
依田 明（昭和女子大学大学院教授・横浜国立大学名誉教授）
- ・地域の役割（地域の育児機能を取り戻そう）
松本寿道（福岡市医師会乳幼児保健委員会委員長）
- ・小児科医（かかりつけ医）の役割
浜本芳彦（日医乳幼児保健検討委員会委員・浜本小児科）

学校医講習会

平成16年度

- シンポジウム 「各科専門医の学校保健活動」
精神科の立場から
- ・武石恭一（千葉市医師会学校保健研究委員会委員長）

平成15年度

- シンポジウム 「特別支援教育に対する学校医のかかわり」
知的障害・情緒障害児へのかかわりー精神科
- ・本城秀次（名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター長）

平成14年度

- 講演 ・子どもとコンピューター特に子どものこころとからだに与える影響について-
村田光範（和洋女子大学教授・日医学校保健委員会委員長）
- シンポジウム 「学校保健にかかわる専門相談医のあり方」
- ・精神科医の立場から
山崎晃資（東海大学医学部教授・日医学校保健委員会委員）

平成13年度

- 講演 ・児童生徒の虐待防止
花田雅憲（近畿大学医学部精神神経科教授）
- ・学校精神保健におけるPTSDの理解のために
金吉晴（国立精神・神経センター精神保健研究所成人精神保健室長）

平成11年度

- 講演 ・学校精神保健システムー特にバックアップ体制について
山崎晃資（東海大学医学部教授）

平成10年度

- シンポジウム 「学校医は“こころ”の問題にどう関わるべきか」
- ・学校長の立場から
福山 勇（大阪府立桜塚高等学校長）
 - ・養護教諭の立場から
中村泰子（東京都狛江市立第1中学校）
 - ・学校医の立場から
島田照三（兵庫県医師会学校保健部）

乳幼児保健検討委員会

－諮問・答申－

- 平成10年3月 健やかな子育て支援－特に地域医療の立場から
- 平成12年1月 保育所嘱託医・幼稚園園医の活性化と組織化に向けての検討とそれに係る手引書（「保育所・幼稚園園児の保健」の改訂）
- 平成14年3月 乳幼児の健全な心の発達に果たす医師及び医師会の役割－育児支援を含めて－
- 平成16年3月 乳幼児が心身ともに健やかに育つための諸課題（地域における連携、病後児保育のあり方等）

学校保健委員会

－諮問・答申－

- 平成10年3月 学校精神保健の具体的展開方法、それに対応する学校医の研修のあり方
- 平成12年3月 新世紀における学校医の在り方について
- 平成14年3月 学校医活動における健康教育の在り方と推進のための方策
- 平成16年3月 学校医活動の実践とその展開方法

乳幼児保健検討委員会答申 (平成14年3月)

目 次

| | |
|---------------------------------------|----|
| I. はじめに | 1 |
| I—1 子どもの心の問題点 | 1 |
| I—2 乳幼児期の心の健全育成の重要性 | 3 |
| II. 医師個人の役割 | 6 |
| II—1 外来診療・健診における役割 | 6 |
| II—2 地域における連携 | 18 |
| II—3 嘱託医・園医としての役割 | 20 |
| II—4 コミュニティへの参加 | 21 |
| III. 地域医師会としての取り組み | 24 |
| III—1 心の健康のための地域における各機関の 連携システムの確立 | 24 |
| III—2 子どもの心対策委員会の設立 | 24 |
| III—3 講習会の開催 | 25 |
| III—4 地域住民参加のキャンペーンなど | 25 |
| IV. 保育所嘱託医・幼稚園園医の組織化へ向けての検討 | 27 |
| IV—1 実態把握 | 27 |
| IV—2 嘱託医・園医の後方支援体制の構築 | 29 |
| IV—3 日本医師会の役割 | 29 |
| V. むすび | 31 |

参考

| | |
|---|----|
| 平成13年度保育所・幼稚園園児の保健管理、保健指導に対する 医師会の取り組みについてのアンケート調査結果 | 33 |
|---|----|

学校保健委員会答申 (平成10年3月)

目 次

| | |
|---|----|
| はじめに | 1 |
| I. 学校精神保健の現状 | 2 |
| 1. 児童生徒の「こころ」の問題の現状 | 2 |
| 2. 問題の根底にあるもの | 9 |
| 3. 学校での対応の概況 | 14 |
| II. 学校医と精神保健 | 24 |
| 1. 学校医の児童生徒の「こころ」の問題へのかかわり方 | 24 |
| 2. 学校医としての対応 | 25 |
| III. 学校精神保健システム | 29 |
| 1. 学校保健委員会の活用 | 29 |
| 2. 学校保健委員会・小委員会としての 「こころの健康協議会(仮称)」の創設 | 29 |
| 3. 学校精神保健システム(ネットワーク)の構築 | 29 |
| IV. 学校精神保健活動推進のための対策 | 34 |
| 1. 学校医の対応と意識 | 34 |
| 2. 学校側の体制づくり | 36 |
| 3. 医師会の果すべき役割 | 37 |
| V. 学校精神保健の視点から見た「学校医研修」のあり方 | 39 |
| 1. 研修の必要性 | 39 |
| 2. 研修会の実施方法 | 39 |
| 3. 研修内容 | 41 |
| 4. 研修の補完的事項 | 42 |
| おわりに | 43 |
| 【資料】 こころの健康に関するアンケート調査結果について | 44 |

日医雑誌における特集

平成12年5月1日号

子どもの心を育む

- ・小児科医と保護者たちの会「子育て支援セミナー」・・・内海裕美, 松平隆光
- ・子どもの心をめぐって・・・・・・・・・・鴨下重彦, 天野曄, 相澤昭, 内田伸子,
辰見敏夫, 保科清
- ・3歳までの心・・・・・・・・・・高橋悦二郎
- ・子どもの心の発達と親子関係・・・大塚親哉
- ・社会性の発達・・・・・・・・・・詫摩武俊
- ・育児相談における心の健康への配慮－寛大な心で、優しい対応を－
・・・・・・・・南部春夫
- ・乳幼児期の問題行動・・・・・・・・・・高橋系一
- ・学童期の問題行動・・・・・・・・・・甘楽昌子
- ・不登校の事例を解析して・・・・・・・・石谷暢男
- ・心の問題への対応－診療現場から・・井上登生

[ひとくちメモ]

- 児童虐待 (松井一郎)
- 学級崩壊 (尾木直樹)
- 学習障害 (宮尾益知)
- 行為障害 (長畑正道)
- 外傷後ストレス障害 (奥山眞紀子)
- 地域における小児科医と親子とのかかわり (牛山允)

平成13年12月15日号

育児不安と親子関係

- ・育児不安解消を目指して・・・・・・・・巷野悟郎, 古平金次郎
- ・養育環境の変換と育児不安・・・・・・・・山口規容子
- ・プレネイタルビジットの効用・・・・・・・・多田裕
- ・親子関係の心理・・・・・・・・青木紀久代
- ・育児不安をもつ親へのかかわり・・松本壽道
- ・虐待防止・・・・・・・・奥山眞紀子

子どもの心の診療に携わる専門の医師の養成に関する関係者の取り組みの現状・概要（未定稿）

平成17年5月11日

| 名称 | 学会の会員構成 | 対象としている子どもの心の問題に関する対象疾患・領域等 | 子どもの心の問題の診療に携わる医師の養成に関する取り組み |
|------------------|--|---|--|
| 日本小児科学会 | 医師：18,422名（専門領域不明） 医師以外：288名（心理関係者等） ※分科会である日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会が中心となって取り組んでいる。 ※現在いくつかの委員会にまたがっている子どもの心に関する検討事項を検討する子どもの健全育成に関する委員会を立ち上げる予定。 | <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの心の発達に及ぼすテレビ視聴、テレビゲームなどの影響 ・十代の喫煙 ・飲酒の問題など | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の問題に特化した研修プログラム、認定制度はない。 ・小児科学会認定制の研修目標中に「精神疾患（精神・行動異常）、心身医学」が含まれている。 |
| 社団法人 日本精神神経学会 | 精神科医：約97%（含む小児精神科医） 小児科医：約0.08% 他科、コメディカル等：約2.92% | <ul style="list-style-type: none"> ・ICD-10のF90～98に限らず、小児期、思春期の統合失調症、感情障害、神経症性障害など、広く対象とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学術集会でのシンポジウム、教育講演、研修で「児童に関係したもの」をひとつは選ぶ。 ・日本精神神経学会「精神科専門医制度」で、専門医になるための研修内容として児童思春期症例を設定している。 |
| 社団法人 日本小児科医会 | 小児科標榜の医師：6,401名 （平成17年2月末現在） ※「子どもの心対策部」を設置している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの心の発達から、小児科医が遭遇するであろう子どもの心の疾患 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成11年から「子どもの心研修会」を前期・後期合わせて4日間にわたり開催している。 ・平成13年からは、思春期の心の問題に焦点を当て、思春期の臨床講習会も年1回開催している。 ・小児科医としての経験も考慮して、日本小児科学会の認定医および専門医で、本会の会員であれば研修会に参加できる。 ・「子どもの心研修会」の4日間を履修した小児科医で、「子どもの心相談医」の登録申請をしたものを認定している。5年ごとの更新手続きには、「子どもの心研修会」の後期再受講が必須である。 ・その他に、子どもの心に関する講習会ないし講演会を受講して（1時間2単位）、合計30単位の履修を義務づけている。 |
| 日本児童青年精神医学会 | 2,773名（2005年2月25日現在） 精神科医：1,232名 小児科医：182名 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICD-10ではF7～9に属する疾患（特に広汎性発達障害、注意欠陥／多動性障害、行為障害、反抗挑戦性障害、学習障害等） ・成人の精神疾患の中で18歳未満、とくに15歳未満で発病したもの（統合失調症、気分障害、解離性障害、強迫障害等） ・「不登校児童」のさまざまな病態・若年性摂食障害・児童虐待問題 ・その他、境界性人格障害、自己愛性人格障害、回避性人格障害、反社会性人格障害等の思春期版 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本児童青年精神医学会認定医制度 ・日本精神神経学会専門医制度への協力 |
| 日本小児心身医学会 | 821名 小児科医：582名 精神科医：25名 | <ul style="list-style-type: none"> ・心身症（摂食障害など） ・不登校 ・神経症、発達障害など | <ul style="list-style-type: none"> ・研修会（年1回） ・イブニングセミナーなど （・学会独自の専門医は考えていないが、日本小児科学会と日本心身医学会の両学会の専門医を持つ者が一応専門医と考えている） |
| 日本小児総合医療施設協議会 | 会員施設数 26施設 | <ul style="list-style-type: none"> ・会員26施設中心療科系専門外来のある病院16施設、固有病床（混合病床含む）をもつ病院8病院。 | |

| 名称 | 学会の会員構成 | 対象としている子どもの心の問題に関する対象疾患・領域等 | 子どもの心の問題の診療に携わる医師の養成に関する取り組み |
|-----------------------|--|--|--|
| 全国児童青年精神科医療施設協議会 | 会員施設 22施設 | | ・研修会あり。 |
| 全国医学部長病院長会議 | | | ・大学医学部、医科大学における児童青年精神医学卒前教育の現状についての資料。 ・医師国家試験出題基準（医師国家試験における精神神経疾患の占める割合は、各論の5%、総論の4%であるが、小児関連の出題は極めて少ない（平成16年は、自閉症の症状に関する問題が1題のみ出題された）。） ・小児精神科の診療を行っている大学はほとんど皆無。 |
| 日本小児神経学会 | 3,128名 小児科医 : 2,733名 脳神経外科 : 82名 精神神経科 : 36名 | ・発達障害 | ・小児神経科専門医制度 |
| 日本小児精神神経学会 | 詳細不明 | 広範 | ・学術集会（年1回） |
| 社団法人 日本精神科病院協会 | 1,214名（病院）2005年2月末 | ・精神保健医療福祉に関する法制・制度、経済、管理運営、国際交流、看護・コメディカル問題等々 ・各種不安障害、あるいは不登校、ひきこもりなどの非社会的問題行動 ・強迫性障害、転換性障害、解離性障害など神経症性ないし境界性の疾患 ・発達障害の症例 ・統合失調症や双極性気分障害など児童・思春期の精神病性疾患 ・以上のいずれの疾患によるものであるにしろ、そうでないにしろ、反抗挑戦性障害ないし行為障害的な特徴を併せ持つ症例 ・同じく、何らかの形の虐待を受けた子どもの症例 | ・こころの健康づくり対策」研修会 |
| 国立精神・神経センター | | | 国立精神・神経センター国府台病院レジデント教育プログラム 第一コース：臨床研修医2年間の修了者で児童精神科研修を希望する者 第二コース：精神科医としてすでに2年以上の他院での専門研修を経た者 第三コース：小児科医としてすでに2年以上の他院での専門研修を経た者 |
| 国際成育医療センター こころの診療部 | 育児心理科 医長1名 発達心理科 医長1名、医員1名 思春期心理科 医長1名 臨床心理部門 常勤2名、非常勤2名 レジデント医師5名 | 広汎性発達障害（主として高機能）、学習障害、注意欠陥および行動の問題（ADHD、CD、など）、トウレット障害、強迫行動、単純トラウマ（交通事故など）、複雑トラウマ（虐待・いじめなどによる）、愛着障害、適応障害（転校、病気、その他）、不登校、うつ状態、解離・転換症状、食行動の問題（神経性食欲不振症など）、その他の思春期の問題、育児不安の家族、家族の問題（暴力、離婚、その他）、など | こころの診療部レジデントカリキュラム |

| 名称 | 施策等 | 対象とされている子どもの心の問題に関する領域・対象疾患 | 子どもの心の問題の診療に携わる医師の要請研修に関する取り組み |
|-------|----------------------------|---|---|
| 文部科学省 | 医学・歯学教育の改革 特別教育支援体制推進事業 | 人体各器官の正常構造と機能、病体、診断、治療 全身に及び生理的变化、病体、診断、治療 診療の基本 臨床実習 LD、ADHD | ・モデル・コアカリキュラムの策定 ・全国医学・歯学教育指導者研修会 ・教員の教育業績評価ガイドラインの策定 ・各大学の共用の臨床実習前の試験 ・診療参加型臨床実習ガイドラインの策定 ・特別支援教育コーディネーター養成研修 |